

# 2022年度の学部学生数 263.2万人で過去最多！

女子占有率は45.6%。昨年と同率で過去最高！

旺文社 教育情報センター 2022年10月21日

2022年度の学校基本調査(速報)が公表された。18歳人口は減少中だが、大学の学部生は増加傾向が続き、本年も過去最多を記録した。学部生の女子比率は昨年度までの上昇傾向が落ち着いていたが、昨年と同率で過去最高となっている。

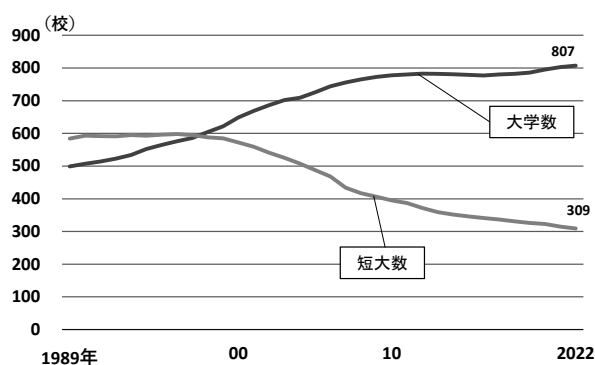
本稿では大学・短大の学校数、学生数などについて分析した。合わせて、今後の受験生数予測も掲載した。

## ◎「学校基本調査」

・学校教育行政に必要な基本的事項を明らかにすることを目的として、1948年度(昭和23年度)から毎年実施されている。幼稚園・小学校・中学校・高校・特別支援学校・専修学校・大学・短大など全学校を対象として学校数、在学者数、入学者数、卒業生数、入学の状況・卒業後の状況、教員数などを調査。

・今年度の調査結果「速報」による公表事項は、コロナ禍の影響から学校数・在学者数・教員数にとどまった。昨年、昨年同様となった。卒業後の状況など全項目の集計結果は、12月に確定値として公表予定。

## 大学数、短大数の推移



	合計	国立	公立	私立
1989年				
大学	499	96	39	364
短大	584	41	53	490



	合計	国立	公立	私立
2022年				
大学	807	86	101	620
短大	309	0	14	295

※大学に大学院大学を含む。 ※学生募集停止の大学・短大も正規の廃止手続きが完了していない場合は含む。 ※通信教育のみを行う大学・短大は除く。

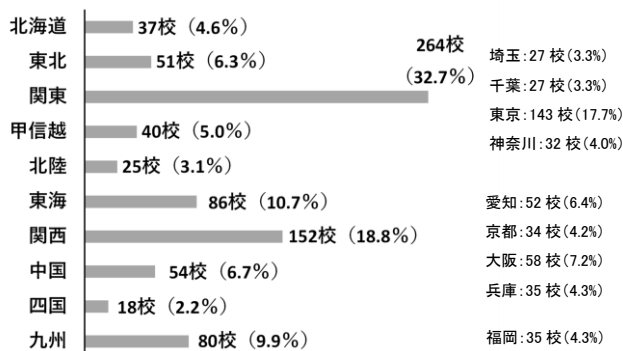
## 大学数は微増、短大数は減少

2022年度の大学数は807校となった。これは過去最多の数字である。国立大学は2007年10月に大阪外国語大学が大阪大学と統合されてからは、新設や統廃合は行われていない(なお、2024年度中を目途に東京医科歯科大学と東京工業大学が統合予定)。

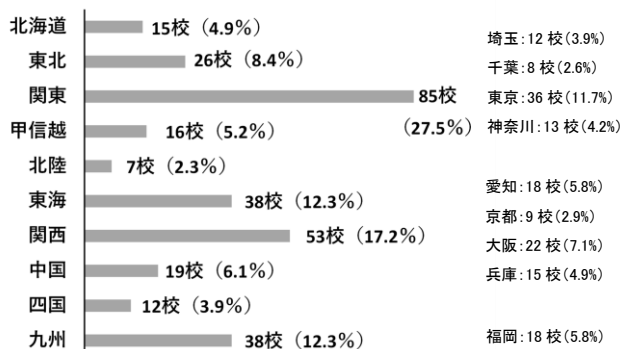
短大は私立が6校、減少した。1996年度の598校をピークに、減少が続いている。2000年度から2012年度にかけて、毎年大きく数を減らしていった。背景に志願者の減少がある。ここ数年、学校数が減少するペースは落ちたものの、今後も同様の傾向が続くと思われる。

## 2022年度 大学・短大のエリア別の設置状況

### エリア別大学数 (全807校)



### エリア別短大数 (全309校)



## 2022年度も大学・短大のエリア別設置状況は首都圏中心

大学数を地域ごとに見ると、関東には264校で全体の32.7%、つまり3分の1程度が関東にあることになる。中でも首都圏、特に東京に集中している。東京にあるのは全体の約18%である。次に多いのは関西で、152校、18.8%。都道府県ごとに見ると、多い順に東京、大阪、愛知、北海道、そして兵庫と福岡が同数となっている。

短大は大学ほどは偏っていないが、傾向は同様だ。関東にあるのは85校で全体の27.5%。次に多いのは関西で53校、17.2%。都道府県ごとに見ると、多い順に東京、大阪、愛知と福岡が同数、北海道と兵庫が同数となっている。

※エリア・都道府県は、大学・短大の本部所在地による。  
 ※大学に大学院大学を含む。  
 ※学生募集停止の大学・短大も正規の廃止手続きが完了していない場合は含む。  
 ※通信教育のみを行う大学・短大は除く。

## 大学・短大の学生数 & 女子占有率の推移

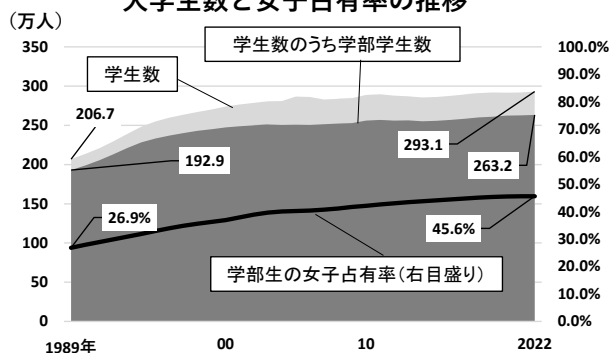
### 大学の学生数は過去最多。女子比率は昨年と同様。短大生は減少

大学の学部生の人数は昨年度から約7,000人増加し、263.2万人。ここ最近の傾向を見ると、2015年度以降、学部学生数は増加が続いている。女子比率は前年と変わらず、45.6%だった。設置者別の内訳を見ると、国立大学は43.1万人、公立大学は14.4万人、私立大学は205.8万人である。

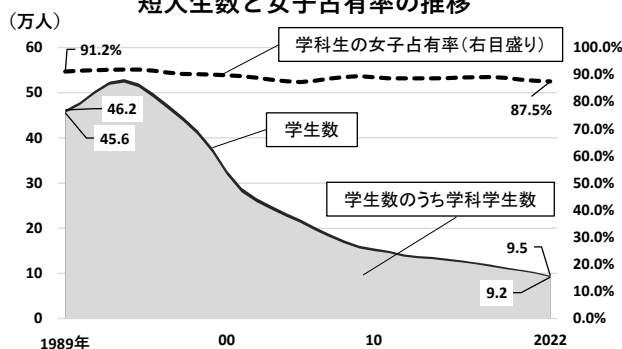
短大の学科学生数は9.2万人。昨年比で約7,600人も減少した。

※学生数には大学院生(大学の場合)、別科・専攻科の学生、聴講生等を含む。  
 ※通信教育の学生は含まない。

### 大学生数と女子占有率の推移

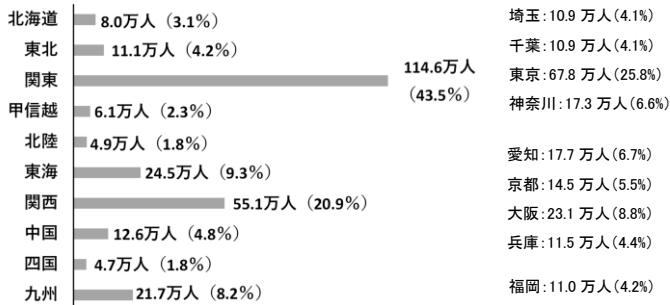


### 短大生数と女子占有率の推移

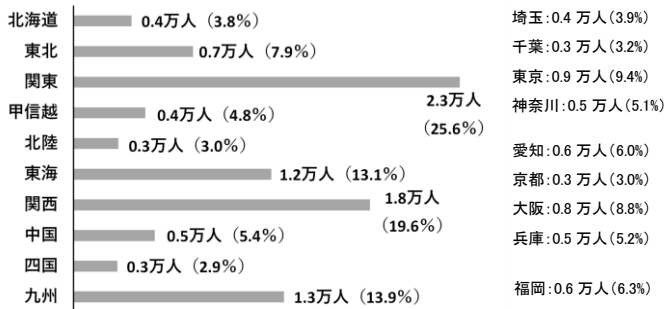


## 2022年度 大学(学部)、短大(学科)の エリア別の学生数

エリア別大学生数 (計2,632,410人)



エリア別短大生数 (計91,799人)



### 大学生は首都圏への偏りが顕著 短大生は多少分散傾向あり

大学生の人数が最も多い都道府県は東京で、67.8万人である。次いで大阪が23.1万人。東京が他を大きく上回っている。東京、大阪以降は愛知、神奈川がほぼ同数。そして京都、兵庫、福岡、埼玉、千葉と続く。昨年と比べると、千葉、大阪、京都で2,000人以上増加した。首都圏、関西での増加が大きい。

短大生の人数は東京がやはり最多だが、大学生ほどは偏りが見られない。東京8,600人、大阪8,100人、福岡5,800人、愛知5,500人、兵庫4,800人、神奈川4,700人となっている。昨年と比べ、ほとんどの都道府県で減少した。東京、大阪、愛知、兵庫、神奈川など、もともと短大生数の多い地域で減少が目立った。

※エリア・都道府県は、大学の学部、短大の学科所在地による。  
※通信教育の学生は含まない。

ここまで「学校基本調査」速報に基づいて大学数や学生数を示した。これとは別に、2022年4月の学生募集を実施した大学に関して、大学数や学部・学科数、新設学科の傾向、学問分野別の設置状況などに関する分析を、2022年6月に旺文社教育情報センターから配信している。[こちらの記事](#)も参照していただきたい。

### 2023年入試での大学受験生数は62.4万人と予測

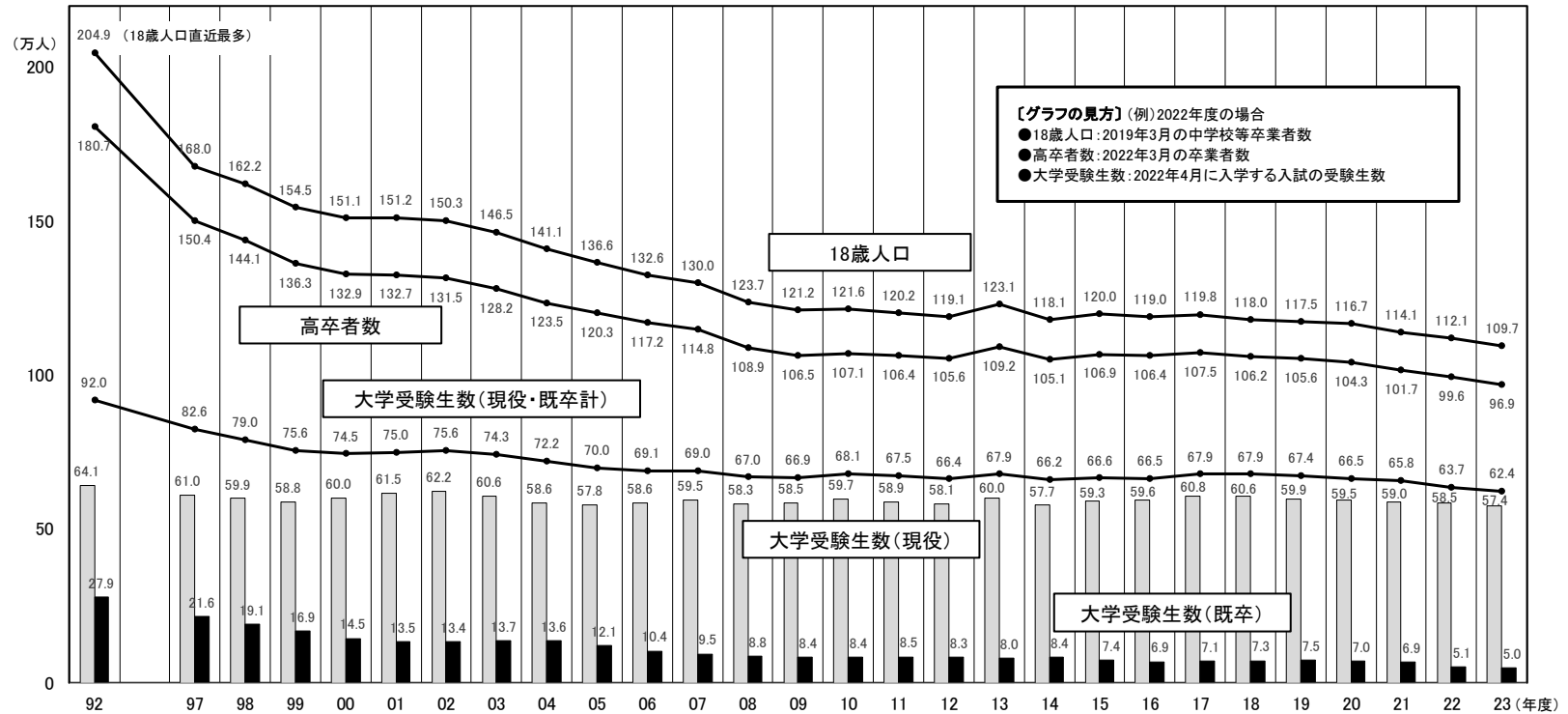
最後に、「学校基本調査」や入試結果などを基に、次ページに18歳人口、高卒者数、大学受験生数の推移とともに次年度の大学受験生数予測をグラフで示した。18歳人口の減少や大学現役志願率の動向、既卒生の減少などを踏まえ、旺文社教育情報センターでは、2023年入試の受験生数は62.4万人と予測した（対前年2.0%減）。

(2022.10 今村)

次ページに「18歳人口&高卒者数&大学受験生数 推移」グラフを掲載

# 18歳人口 & 高卒者数 & 大学受験生数 推移

(株)旺文社 教育情報センター  
2022年9月



大学現役志願率(%)	35.5	40.6	41.6	43.1	45.1	46.4	47.3	47.3	47.4	48.1	50.0	51.8	53.5	54.9	55.7	55.4	55.0	54.9	54.9	55.5	56.0	56.6	57.1	56.8	57.0	58.0	58.8	59.3
大学現役入学率(%)	54.2	67.5	71.2	74.8	77.3	77.3	76.4	76.8	78.4	81.8	83.6	85.0	85.9	86.1	86.0	86.1	86.6	86.3	87.5	88.2	88.1	87.6	87.1	88.0	89.7	91.3	91.5	91.7

【注】文科省「学校基本調査」より算出。2021年以前は実数、2022年以降は旺文社予測。「18歳人口」…3年前の中学校卒業生数、中等教育学校前期課程修了者数、義務教育学校卒業生数の合計。「高卒者数」…高校卒業生数、中等教育学校後期課程修了者数(いずれも全日制、定時制)の合計。通信制は含まない。「大学受験生数」…高認(大検)合格者は含まない。「大学現役志願率」…新規高卒者における大学受験生の割合。「大学現役入学率」…大学現役受験生における大学入学者の割合。